

露地点滴灌水資材の効果確認試験

JAなんぽろ

有限会社NOAH



4月27日 試験区



5月7日 左試験区 右慣行区



5月11日 左試験区 右慣行区



5月24日 慣行区



5月24日 試験区



7月23日 左試験区 右慣行区

試験目的

露地点滴灌水資材の効果確認

試験作物
及び品種

長ねぎ

試験資材
及び数量(規格)

露地点滴灌水キット 1セット

慣行資材

無灌水区・スプリンクラー区

栽培方法

播種日

慣行区:2月中旬
試験区:2月中旬

定植日

慣行区:4月下旬
試験区:4月下旬

【栽植密度】

畝幅:95cm
株間:5cm

資材使用期間

5月~7月

試験区面積

1,000㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

設置後は、スプリンクラーよりも準備が楽だった。
気温によりチューブの伸び縮みが起こり、蛇行や止めているピンをはじくことがあった。
中盤以降は土中に埋設されたためそのようなことは起こらなかった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

今年は、夏の気温が低い中でも、慣行区よりも若干ではあるが、生育が良かったように感じた。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】:水が欲しい時に効果的に与えられる点。スプリンクラーよりも作業性がよい点。
【問題点】:気温によるチューブの伸び縮みが発生する点。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

単年度では問題は見られなかった。

(5)促成・抑制効果について

多少あるように思われる。

(6)雑草・病害虫の発生について

スプリンクラーの場所よりも雑草は少ない傾向がみられた。

モニター感想

試験期間中は慣行区よりも生育が良く感じたが、今年も途中で雨も多く、点滴灌水が必要になる場面が少なかったが、初期生育時にタンクを使用し灌水を行っ

た結果昨年より1週間程度早く出荷することができた。

スプリンクラーと比較しても、風の影響を受けなくて済む点や灌水で直接根に水分を与えられることで、雑草の抑制にもつながったように感じる。来年は、液肥等の使用も検討している。

JA担当者の感想(資材課 丸山 氏)

今年度の試験については、昨年から課題の話し合いを各方面で行い試験に臨むことができ、生産者も満足いく結果となりました。

取付作業や取り外し作業も思ったより苦にならないということで、作業性も感じられる資材だと思えます。

来年度は液肥の使用も視野にいれているとことで、今後もより良い使用方法を模索していきたいです。

今後の使用について

継続して使用したい。
液肥の使用効果も検証したい。

将来希望する資材について

灌水チューブの規格変更
ドリップネットPCAS16 30cmピッチ(現行使用)
ドリップネットPCAS16 20cmピッチ(希望)

1 栽培システム

2 敷設システム

3 製地フィルム

4 マルチ

5 不織布

6 育苗資材

7 防虫ネット

8 除菌資材

9 ICT機器

10 その他